

視覚障がいの理解のために

- ◇視覚障がいとは、見ることが不自由または不可能になっている状態のことです。「全盲」と「弱視」とに大きく分けられています。「全盲」の人は見ることよっての情報を得ることが出来ません。「弱視」の人は残っている視力を補ってくれる用具を用いたりして、情報を得ることができます。
- ◇弱視の人にはさまざまな見え方が有ります。ただし、見える範囲が狭い、光を眩しく感じる、暗い所は見えないなどといった個人差がいろいろです。また、色の区別がつかない見え方もあります。
- ◇生まれたときから見えない人と、病気や事故などで見えなくなっていく人がいます。視覚障がいのある人の場合、聞く・触る・匂いをかぐ事などの感覚から情報を得ていきます。外出は盲導犬や白杖を使って単独歩行をする人とガイドヘルパーと一緒に歩く人がいます。視覚障がいのある人たちは、頭の中に地図を描いて歩いています。盲導犬にも盲導犬使用者(ユーザー)が指示を出して歩いています。ただ、弱視の人たちの中には白杖を使わないで歩く人もいるので一見して視覚障がい者とわからない事もあります。
- ◇視覚障がいのある人たちの読み書きのために「点字」があります。でも、目が不自由な人がみんな点字で読み書きが出来るわけではありません。入力した文字を読み上げてくれるソフトを使った「音声パソコン」などを用いて読み書きをする人が増えてきました。

声をかけてください！

視覚障がいのある人は、困っていてもまわりの様子がわからないために援助を求めにくいことがあります。戸惑っている姿を見かけたら「何かお手伝いしましょうか」などと、声をかけてください。どうすればいいのかは視覚障がいのある人に聞きましょう。声をかけてもらうことで安心して外出することができます。

盲導犬

街の中で仕事中の盲導犬を見かけた時は、盲導犬に声をかけたり、触ったりしないで温かく見守ってください。

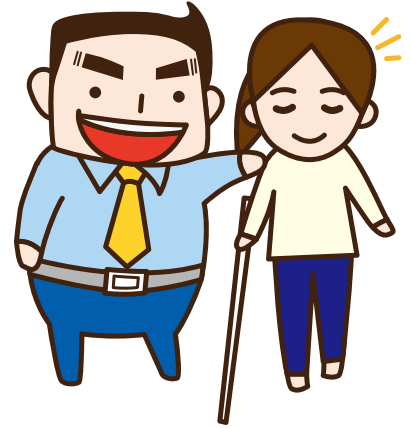


歩行補助の設備として黄色い誘導ブロックが設置されています。その上に自転車などを置かないようにしましょう。

視覚障がいのある人への接しかた

1. あいさつ

自分の方から名前を伝えてあいさつをしましょう。
よく会う人でも名前を言ってもらおうと人違いせずすみません。いきなり話し始められると誰だかわからず困ります。名乗ってから話すようにしましょう。

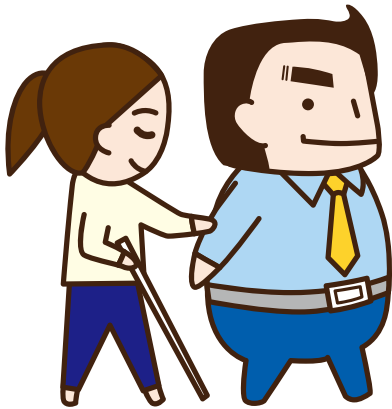


2. 声のかけ方

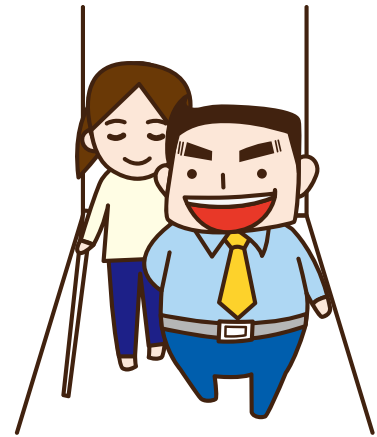
街で視覚障がいのある人を見かけたときは、軽く肩をたたき声をかけて下さい。「何かお困りですか…」 「何かお手伝いしましょうか…」と声をかけてもらうことで援助を必要としていれば「……をお願いします」など依頼されます。また、「ここはどのあたりですか」など今いる場所を知りたいこともあります。

3. 一緒に歩く

サポートする人が前に立って、肩か肘をつかまってもらって歩きます。視覚障がいのある人は、サポートする人のからだの動きを感じ取りながら歩きます。



肘の上に軽くつかまってもらいます



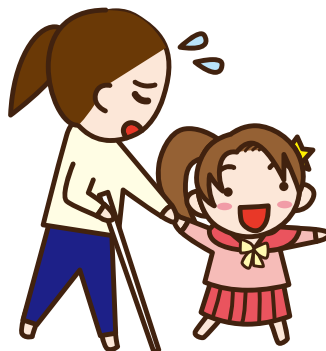
狭い場所では腕を後ろにまわします

4. 気をつけること

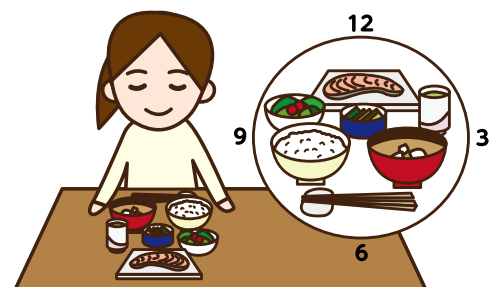
視覚障がいのある人の身体を後ろから押さないでください。腕や白杖をつかんで引っばらないでください。見えない人は直接自分の手や白杖で安全が確認できないと不安に感じます。まず、どのように誘導すればよいか聞いてください。誘導の受け方は人によって違います。「あっち」「こっち」ではなく「右」「左」「前」「後ろ」と言葉で伝えてください。時計の文字を使って「1時の方向」「9時の方向」などという言い方もあります。



後ろから押さないでください



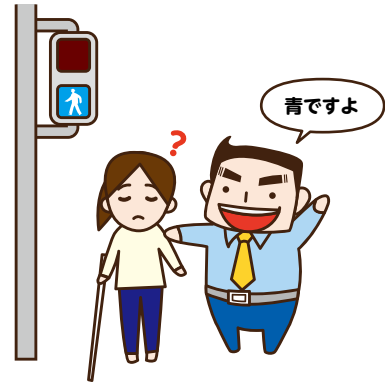
引っばることはしないでください



具体的なサポートのしかた

1. 横断歩道・交差点で

横断歩道や交差点では渡るタイミングの判断が難しいです。音響信号機のない横断歩道ではとても不安です。信号機が青に変わった時に「青になりましたよ」「一緒にしましょうか」などと声をかけましょう。



2. 人の集まる場所で

市役所・病院など人が多くいても「受付」などの場所がわからないことがあります。サポートをする時は何をしたいのかを聞いてください。駅などの自動券売機の操作は分かりにくいです。行き先や料金を確認して伝えましょう。



3. 駅のホームで

駅のホームは不安で最も危険な場所の一つです。「ホームまで一緒にしましょうか」など声をかけてください。ホームでは転落事故の危険性があります。電車とホームとの隙間や段差にも気をつけて声をかけましょう。

4. トイレで

異性の場合は、近くにいる同性の方にサポートをお願いしましょう。トイレの中では便器の種類・位置・向き・水の流し方、トイレットペーパーや鍵の位置などを説明します。後で使用する人のために汚れなどへの配慮も大切な事です。



5. いろいろな場所で

「危ない」という言葉だけでは伝わりません。「自転車がたくさんあります」「前に車が停まっています」など具体的にまわりの様子を言葉で説明してください。状況がわからないと動くことが出来ません。危険な場面では説明だけでなく、安全な場所へすぐに誘導してください。

知っていますか

1. 誘導用ブロック

駅や横断歩道などで良く見かける誘導用ブロックは視覚障がいのある人がより安全に外を歩くことができるように考案されたものです。

ブロックは線の形で移動の方向を示す線状ブロック（誘導用）と点状ブロック（警告用）の2種類です。



2. 白杖

視覚障がいのある人が歩く時に、障害物がないかどうかを、路面にふれたりして確認するための白い杖が「白杖」です。障害物や段差・歩道の切れ目など歩行に必要な情報を白杖で確認します。目の不自由な人が道を歩く時は白杖か、盲導犬を連れていることが、法律で認められています。また、ドライバーや他の歩行者・警察などへの注意を促す役目もします。



3. 盲導犬

盲導犬育成施設で訓練を受けた犬が「盲導犬」です。

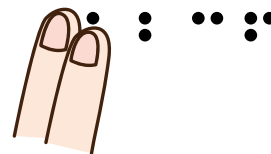
盲導犬は、視覚障がいがある人の自立生活の大きな支えです。盲導犬は視覚障がいのある人の歩行を助ける大切なパートナーです。

盲導犬ユーザー（使用者）は、ハーネス（胴輪）をにぎって盲導犬に指示を出し目的地まで移動します。盲導犬は色がわかりません。信号機のそばで見かけたら「青ですよ」「渡れますよ」など声をかけましょう



4. 点字

指先の感覚で読むことができる目の不自由な人のための文字が「点字」です。縦3点横2点の6つの凸点の組み合わせで文字体系されています。各点の組み合わせによってできる63種類を基本に構成されています。



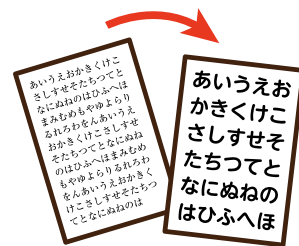
5. 音声訳

文章で表されたものを、様々な符号を含めて音声によって作られた物を「音声訳」と言います。聞き手に理解しやすく、聞きやすく音声訳をした録音図書として目の不自由な人に届けられています。



6. 拡大写本

文字を読むのが難しい人に、最も読みやすい文字の大きさで書き写したものが「拡大写本」です。弱視のため見えにくい方も多く、見え方も様々です。その人の見え方に合った個別の対応がされています。



7. ガイドヘルパー

障がいのある人の外出を介助してくれる人が「ガイドヘルパー」です。障がいのある人の自立と社会参加のお手伝いをします。買い物・旅行に行くなどの活動のサポートをします。



視覚障がい者の安全やバリアフリーに考慮された建物、設備、機器などに付けられているマークです。



知っていますか？ほじょ犬マーク

ほじょ犬（身体障がい者補助犬）とは、盲導犬の他、肢体不自由の方の日常生活をサポートする介助犬、聴覚障がいの方に必要な音を知らせる聴導犬の総称です。公共施設・交通機関はもちろん、民間施設へのほじょ犬同伴の啓発マークです。

主な相談機関

◆新潟県視覚障害者福祉協会

◆新発田市盲人福祉協会

◆新発田市音声パソコンフィンゲル

◆日赤点訳奉仕団新発田まどかグループ

◆音声訳むぎの会

主な支援団体

◆拡大写本「結の会」

◆新潟県点字図書館

◆NPO法人障害者自立支援センターオアシス

◆新発田市社会福祉協議会(ガイドヘルプサービス・福祉有償運送)